

ふくおかAL通信

～県立学校の教室から～

第31号
(R2.1.31)

福岡県立学校
新たな学び
プロジェクト

高 福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」

生き生きと活動でき、社会的・職業的に自立する生徒の育成を目指して

福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」は、昭和62年に筑紫野市に開校した軽度の知的障がいのある生徒を対象にした学校です。工芸、機械、窯業、クリーニング、被服の五つの職業コースを設け、職業教育を教育課程の中核に据えています。また、全寮制により学校・寄宿舎一体の教育を行っています。

1 学校のミッションと目指す生徒像

ミッション 「後期中等教育における知的障がい教育の専門校として、職業的自立と社会参加を実現する人間の育成をする。」

【目指す生徒像】

- 将来の生活や人生について明るい見通しをもち、毎日の学校生活を楽しんでいる生徒
- 毎日の生活や学習の中で、物事に対して探究心をもち、積極的に取り組もうとする生徒
- 他者と協調しながらも自己の主張をもち、自分の力で立ち立ちしようとする生徒

2 授業改善の取組の経緯

福岡高等学園では、授業改善について中心的な役割を果たしているのは、研修部及び研究推進委員会です。職業的自立及び社会参加に向け、平成26年度から平成29年度まで言語活動の充実を図る校内研究を行ってきました。

平成30年度には、「生徒の深い学びにつなげる学習指導～ALの手法等を取り入れた授業づくりをとおして」と題した研究に取り組みました。県教育センターの「『アクティブ・ラーニングの視点』からの授業構想メモ」を活用して、全校で授業公開に取り組みました。併せて「授業参観用ルーブリック」を活用し、学習指導の在り方を検討しました。検討していく中で、今まで福岡高等学園が職業的自立や社会参加に向けて、各授業で取り組んできた指導の中に、生徒の深い学びにつながる内容が含まれていたことも確認できました。例えば「職業専門」では、与えられた内容をただこなすのではなく、作業において「人」や「物」をどう配置するか、「時間」はどう配分するのが適当かなど、課題解決を取り入れた授業が展開されてきました。また、安全面への配慮については、具体的な場面を設定してシミュレーションを行うなど、障がいの特性も考慮しながら、生徒の思考力を育む取組がなされてきました。

本年度は、各教科等での指導や、学校行事等を関連付けて効果を挙げるよう、カリキュラム・マネジメントに力を入れています。さらに、前年度の取組を引き継ぎながら、各教科等で育成する資質・能力を支える「自立活動」にスポットをあて、研究を推進しています。

3 具体的な授業実践例

職業的・社会的な自立を目指し「主体的・対話的で深い学び」が実現されている三つの授業実践を紹介します。

(1) 職業一般（2年）

職業一般では、清掃を中心に就労の基礎となる力を身に付けています。清掃の場所、人員の配置、協力の仕方など、生徒たちが対話の中でお互いの意見を反映させながら取り組めるよう、教師が支援しています。また、生徒たちが主体的に準備や片付け、道具のメンテナンスができるよう道具置き場の環境を構造化し、工夫しています。その結果、話合いから、清掃、片付けまで生徒



生徒たちが主体的に活動に取り組む様子
(職業一般)

たちのみで取り組めるようになってきました。

(2) 職業専門 被服コース (2年)

作業場は「職場」であるとの意識を高めるため、タイムカードを導入しています。また、作業場におけるやり取りが職場としてふさわしいかという視点からも指導をしています。

生徒は文化祭に向け、スモックづくりに取り組んでいました。いつでも手順を確認できるよう掲示物なども工夫されており、分担された作業に集中して取り組める環境づくりがなされていました。右は作業日誌の一部です。本日の授業で学んだこと、今後どのように改善していけばよいかなど、自己評価を行うことを通して生徒自らが思考し、表現する力を高めています。

自己評価	勤務時間	忘れ物	準備	後片付け	清掃	あいさつ
○:できた	○	○	○	○	○	○
X:できなかった	○	○	○	○	○	○

本日の反省

反省することがボタン付けのミスがあったので作業時間がかかって後片付けが遅くなりました。ボタン付けで学んだことは印の方に通した。後同じ所を裏に返しながら縫うことでも一歩ずつは進められなかったのでもミスがないように印の方を確認しながら縫います。

作業日誌の一部 (被服コース)

(3) 国語 (1年)

文化祭で取り組む劇と関連付け「脚本を読もう」という単元で「聞くこと・話すこと」に重点を置いた学習をしています。

毎時間、プリントで目標と取組の内容を確認することで、学習についての見通しをもつことができるように工夫されています。

また、授業では、個人で練習する場面、ペアやグループで練習する場面、全体で発表する場面が設けられ、協力し合い高め合うこと、全員で評価を確認し合うことなど対話的な学びが仕組みられています。

単元のまとめでは、単元導入時と最終時の読み方や動きを動画で比較し、振り返ることができるよう工夫されていました。生徒たちは動画によって、自分の成長に気付くとともに、相互に学びを評価し合えるようになってきています。

また、「この単元での成長をどう生かしていくか」という設問では、文化祭や日常生活へと学びが繋がっているということを生徒自らが表現することができていました。

◆今日の目標
これまでの学習動画を比べて、自分の成長に気付こう

動画の評価をしよう
良くてきている○ できていない△ ひどいなあ×

観客が楽しめる発表になっていたか	感情や場面に合った表現ができていたか	せりふははっきり言えていたか (発音)	声はよく聞こえていたか (発声)	評価項目	最初の動画	最後の動画
×	×	△	△		○	○

動画を見比べた感想
自分のえんぞうを見て大きさは変わってないけど動きは初めや感情がよくなったと思う。

授業プリントの一部 (国語)

4 授業改善の成果

言語活動の充実への取組から徐々に、生徒の積極性や主体性が伸びてきました。さらに、生徒同士で意見の相違があった場合に、自分の意見を「提案」という形で、相手に伝えることができるようになり、表現力が高まっているのを感じます。

また、教師の立場からは授業のねらいが明確になったこと、ねらいを達成するために言語活動や振り返りを意図的に仕組む授業が増えたことが挙げられます。振り返りではICT機器を効果的に活用している授業も増えました。また、取組の中で、ねらい達成のためには、生徒が「学ぶ必然性」を感じているかが重要だということを経験できたことです。



ビデオを使った授業の振り返り (国語)

5 今後の課題

学校行事や就業体験など様々な取組がある中で、時間をどのように確保していくかが課題です。カリキュラム・マネジメントの視点から、限られた時間でいかに効果的に学ぶかということとともに、福岡高等学園独自の「主体的・対話的で深い学び」の推進をさらに図っていきます。